#12 SeaBRnet 20190326-28,
Legazpi, Philippines
Reported by Yoshihiko IIDA
(15 April 2019)

第 12 回東南アジア生物圏保存地域ネットワーク（SeaBRnet）会議参加報告

飯田義彦
金沢大学環日本海域環境研究センター連携研究員／
白山ユネスコエコパーク協議会事務局アドバイザー

１．はじめに

・参加の経緯：日本ユネスコ国内委員会事務局から第 12 回東南アジア生物圏保存地域ネットワーク会議（以下、SeaBRnet という）への参加打診（2 月中旬）。日本からの取組報告（英語での発表）を行うことが目的。

・参加の形態：ユネスコジャカルタ事務所による招へい参加（SeaBRnet の運営費は日本政府の信託基金（J-FIT）から拠出されている。交通費・宿泊費はユネスコが負担）

２．会議の概要

・会議テーマ：“ユネスコエコパークの持続可能な運営のためのネットワーク強化”
Strengthening Networks for Sustainable Management of Biosphere Reserves

・日本側の参加者：飯田義彦（日本報告）、西方治樹氏・山田晃氏（イオン環境財団）

・参加状況：約 20 ヶ国約 125 名程度の出席者（詳細は現時点で不明）

・日程：2019 年 3 月 26 日（火）～3 月 28 日（木）
3 月 26 日：エクスカーション Albay Biosphere Reserve（2 コースのうちの一つ）
3 月 27 日：会議（各国報告、サブ地域ネットワーク報告）
3 月 38 日：会議（フィリピン、ユネスコ、ドイツ、民間団体（イオン環境財団））

・会場：The Oriental Legazpi（フィリピン・レガズピ市 Albay Biosphere Reserve）

・主催：ユネスコジャカルタ事務所

３．エクスカーション〔抜粋〕

Albay Biosphere Reserve は 2016 年に新規登録（白山 BR は 2016 年に拡張登録）

〈Albay BR の概要〉

- Tiwi 市役所での担当者の説明によれば、45%が山地であり、沿岸域はマングローブとなっている。カツオ漁も営まれており漁業管理も BR の管理運営の一つである。現地では、ダイナマイト漁や違法操業が課題となっている。
- 沿岸域と高地という異なる生態系での取組が行われている。沿岸域では、マングローブ林の再生事業、ウミガメの保全保護事業、沿岸清掃に取り組んでいる。一方で、高地では森林再生を行うとともに、民間企業による地熱利用、堤防による災害管理、農家と漁師の兼業世帯では海藻の養育や海藻麺の生産を進めている。
- 若者を対象とした教育プログラムも実施している。
- 〔エクスカーションの間、武装した警察隊が護衛〕

〈Albay Biosphere Reserve の景観〉

- 禁漁区に指定されているサンゴ礁。沿岸域ではウミガメの保全保護活動も行われている。
- 1860 年代建造の教会を見学。その後、自転車タクシーに一人一人乗車しメイン道

路を走行するという歓迎。

- 竹林公園。2ha に 21 種のタケを栽培（フィリピン全体では 70 種のタケがある）。
- 地元コミュニティにより運営された地下河川を活かしたエコツーリズム。1572 年にスペイン人が入植した Jovellar 市は人口 17,308 人（2015 年）。マヨン山から流出する地下河川で洞窟ツアーを行っている。コウモリも生息する。入場料で観光客の人数規制を行っている。地元民は一人 20 ペソ（1 米ドル）、外国人は 3 米ドルを負担し、その資金を保全活動に利用している。当日のエクスカーションでは学生がアルバイトのツアーガイドとして同行していた。

４．**会議の内容〔抜粋〕**※下線は本報告作成者による

2019 年 3 月 27 日（水）9 時 15 分～18 時 00 分

- ユネスコジャカルタ事務所 Hans D. Thulstrup 氏の冒頭挨拶にて、イオン環境財団による JBRN での民間との連携について言及。会議開催にあたって日本政府の支援に感謝。MAB Youth Forum 2019 は 9 月に中国で開催予定とのこと。

〈各国報告：スライド発表〉

1. フィリピン報告：現在 3 つの BR が登録されている。Albay BR に位置するマヨン山を世界遺産にする運動もあるとのこと。BR でのいくつかの課題が指摘され、環境規制が現状に合わないこと、自然災害の発生、漁業の不法操業、生物多様性のモニタリングシステムの構築、核心地域や移行地域への住民意識の向上が挙げられた。フィリピンの西側の細長い島の Palawan BR では Jeju BR（韓国）との姉妹 BR を締結。Pueto Galero BR では管理運営計画の紹介。／質問「誰がどのようにモニタリングをするのか」、「ジオパークとのマルチ登録の状況」
2. タイ報告：マングローブ林再生の取組やブランディングの話題提供。流域コミュニティ会議（Mae-Sa Kogma BR）、環境教育（Sakaerat BR）、ユースキャンプ（Houy Tak Teak BR）。／質問「ソーシャルメディアで若者に情報が届く取組はあるか」
3. 東チモール報告：Nino Konis Santana National Park を国内で初めての BR にしたい。森（ブナや広葉樹林を含む）や沿岸域で構成され、4000 万年の地質的歴史と現代の戦争の跡で構成される。BR を国立公園管理に活かしたいとの期待。
4. ベトナム報告：BR のラベルを活用した取組（Western Nghe An BR、Langbiang BR）、イギリスの資金提供で Blue Communities という海洋プログラムを実施。
5. カンボジア報告：BR の課題は、水に関する環境問題で、水質、水循環、ゴミ問題。国土の 41%が保護区 protected area であり、政府、市民社会、民間部門との連携をいかに進めるか。Tonle Sap BR ではコミュニティによる漁業が柱であり、BR 教育用の映像が作成されている。BR の仕組みに始まり、生物多様性の概念や湖からの恵みを伝える内容で構成。／質問「気候変動にどう対応するのか」
6. インドネシア報告：新規プログラムとして若手科学者育成の担当部長職を設置 Director of Young Scientist Development。3 つの BR を新規登録予定。ブランディング戦略として 6 つの BR でのロゴ活用を紹介。Giam Siak Kecil Bukit Batu BR での Asia Pulp & Paper Sinar Mas（インドネシアを拠点に製紙業、アグリビジネス、金融業などを展開するグローバル企業の一部門）との民間連携の話題提供（発表者の一人）。二酸化炭素の排出と森林管理の関係性を評価するために航空機ライダーを用いた森林変化のモニタリングを実施。これらのデータに基づき、違法

伐採地の特定といった保全管理に役立てる。合わせてカメラトラップのネットワークを活用し野生動物の生息状況を確認。パトロールも実施。

7. マレーシア報告：2 つの BR の事例紹介。Chini Lake BR でのホームステイプログラム、植林活動。Crocker range BR では管理運営計画 2016-2024 を策定し、管理とモニタリング委員会を設置、JICA との連携事業。大学でデータを蓄積する役割を担っている。マレーシアユネスコデイ 2018 を 9 月 28 日～30 日で実施。
8. ミャンマー報告：Inlay Lake BR の取組紹介。固有魚種の保全、パトロール、旅行者の増加が課題。コンソーシアムの立ち上げ、CEPA（普及啓発）プログラムとしてミャンマーラジオテレビ局 MRTV と連携したメディア展開。大学動物学部との連携。コミュニティの参加によるパトロールとゾーニングの実施。／質問「floating garden とは何か」
9. **日本報告**：飯田から報告。日本の 9 つの BR が移行地域をすべて有していること、『ユネスコエコパーク』についての近刊本を紹介。各 BR で地域学習のような教育面での小中学校連携や大学連携が盛ん。金沢大学が白山 BR で実施したロシア文化交流やベラルーシ・ロシア・日本の BR 交流事業を紹介。／質問「複数自治体の管理ツールは何があるか」（→白山 BR での状況、例えば月 1 回程度持ち回りで会議をしていることを回答）、「大学プログラムの財政的な支援はどこからあるのか」（金沢大学ではユネスコ活動費補助金といった外部資金を獲得していることを回答）

〈サブ地域ネットワークからの報告：EABRN（東アジア）、SACAM（南・中央アジア）、PacMAB（太平洋）〉

10. ブータン報告
11. ミクロネシア連邦報告
12. パラオ報告
13. サモア報告
14. 中国報告
15. モンゴル報告

2019 年 3 月 28 日（木）9 時 00 分～18 時 00 分

〈フィリピンセッション〉

- Palawan BR（Mark Ace V. Dela Cruz 氏。名古屋大学の水分野で修士号取得）：管理運営計画を策定し、持続可能な開発目標（SDGs）とリマ行動計画（LAP）の紐づけを行っている。Environmentally Critical Area Network（ECAN）や Palawan Knowledge Platform（大学と連携した Web 上での情報共有体制の構築）といった独自の取り組みを推進。WNICBR（島嶼ネットワーク）にも参加し、Jeju BR（韓国）とも連携。海洋の分野でオーストラリアのクイーンズランド大学と共同事業。USAID（アメリカの開発援助機関）との連携。Palawan Council for Sustainable Development（PCSD）にて地域の変化を評価分析。／飯田から質問「管理運営計画の策定にあたってどう住民を巻き込んだか」（→2015 年から計画立案を行う中で、ゾーニングや BR の仕組みについての住民説明会を実施）※補足情報：Palawan 島には 24 の自治体、3 つの州立大学、2 つの私立大学。協議会は 75 人の常勤職員。
- Albay BR：地元のビコール（Bicol）大学と協定締結。Albay 研究イノベーション

センターと連携し長期戦略で取組を進めている。※補足情報：BR 協議会の会長はビコール大学学長が務める。

- その他、Puerto Galera BR、Province of Apayao BR からの紹介

〈ドイツ〉

- ドイツのユネスコ国内委員会からの発表。ユネスコ本部と連携し、2017 年には自然保全庁から南部アフリカ地域（42BR ある）に 120 万ユーロの財政的支援。

〈イオン環境財団〉

- アジア地域での店舗展開。若者の教育として国際プログラムを進めている。地域の環境保全活動を支援する助成金制度の実施。

〈ユネスコジャカルタ事務所〉

- 3 つのガイドラインの出版物紹介（日本信託基金 J-FIT の活用）と数週間かけてフィードバックをもらう予定を表明
  - 持続可能性科学からみたユネスコエコパーク管理のための標準フレームワーク（A Standard Framework for Biosphere Reserve Management Informed by Sustainability Science）
  - アジア太平洋地域のユネスコエコパークでのエコラベル適用優良事例（Good Practices on Applying Eco-labelling in Asia and the Pacific Biosphere Reserves）
  - アジア太平洋地域のユネスコエコパークのゾーニング：法的文脈と見方（Biosphere Reserve Zonation in Asia and the Pacific: Legal Context and Perspectives）

〈MAB Youth Forum 2019〉

- 中国の Chanbaishan BR（北朝鮮の国境付近）にて 9 月（月内の日程は未定）300 人規模、うち 150 人は外国人で開催予定。生物多様性条約（CBD）COP15 で成果を発表予定（2020 年 10 月開催予定）。

〈Young Scientist Award〉国内の若手科学者賞の設置も中国やカザフスタンで実施

〈次回の第 13 回会議〉インドネシアが立候補し、パレンバンで開催予定

５．全体の所感

- インドネシアの民間連携、フィリピンでの大学連携の事例は先進的に感じた。複数自治体や多様な関係者が関わる BR はアジアでも多い。日本からの情報発信だけでなく、海外事例の日本国内への情報展開も日本にとって大いに参考となる。
- 各国とも普及啓発用の映像資料が凝っている。Tonle Sap BR（カンボジア）の環境教育用映像は BR や生物多様性の用語の解説も含めた内容構成になっており、地域住民に湖の恵みを科学的に正確に伝える工夫があった。日本も見習いたい。
- 日本で修士課程や博士後期課程を修了した人材や農業研修を体験した MAB や BR 関係者と数名交流することができ、アジア地域の人づくりに日本の息の長い貢献を実感。こうした人脈を通じて BR 間の国際交流が進展することに期待したい。
- JBRN の民間連携の事例は関心が高く、イオン環境財団関係者への質問も発表後にあったようである。日本の事例は全体として興味を持たれる傾向であり、今後もサイトレベルで人が出席し取組を紹介する動きが継続されることが望まれる。

写真（2019 年 3 月 26 日（火）エクスカーション）※すべて本報告作成者が撮影

Tiwi 市役所での参加者への説明

ウミガメの保全保護活動の一端を紹介

船で禁漁区となっているサンゴ礁の島へ

教会にてパンジャップに個別乗車の歓迎

竹林公園での説明

地元住民の地下河川エコツアーガイド

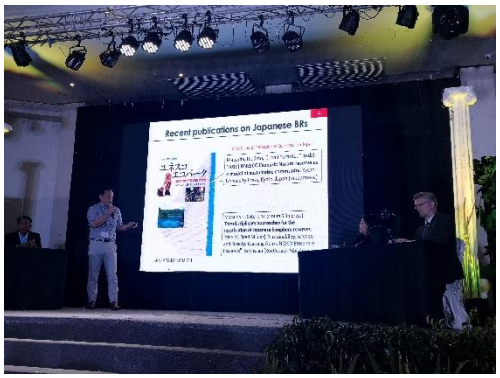
洞窟入口の前にて。安全管理は徹底。

エクスカーション終了後の夕食会場

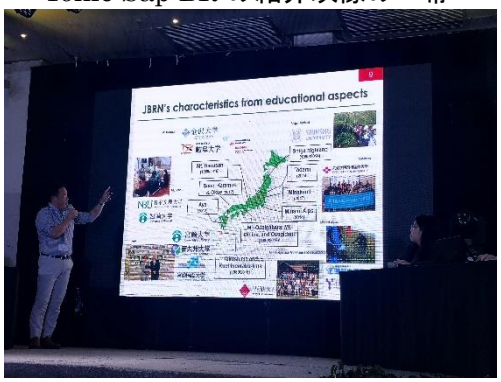
写真（2019 年 3 月 27 日（水）会議）※特記以外は本報告作成者が撮影

ユネスコジャカルタ事務所からの冒頭挨拶

Tonle Sap BR の紹介映像の一幕



日本報告・近刊本の紹介（西方氏撮影）



日本の BR 大学連携の状況（西方氏撮影）

2018 年度ユネスコ活動費補助事業(西方氏撮影)

金沢大学の白山 BR ロシア交流（西方氏撮影）

各国報告セッション終了後（西方氏撮影）

第一日目終了後

写真（2019 年 3 月 28 日（木）会議）※特記以外は本報告作成者が撮影

イオン環境財団・JBRN との連携を紹介

イオン環境財団・質疑に応じる様子

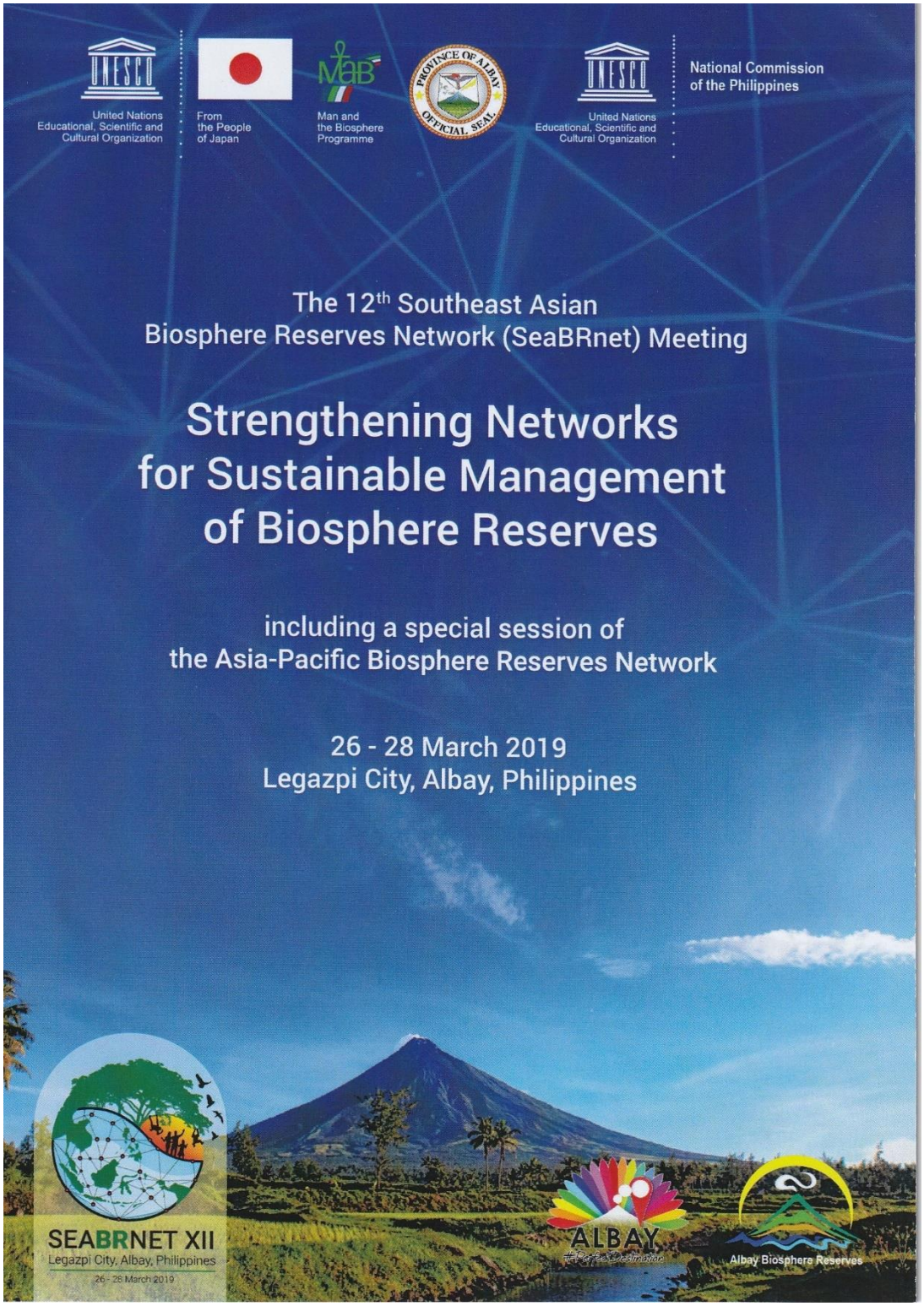
ジャカルタ事務所による出版物紹介

J-FIT 支援によるガイドラインのお披露目

日本関係者とジャカルタ事務所関係者

会議後の西方氏と Thulstrup 氏

マヨン火山（近年も噴火している活火山。AlbayBR では火山とのつき合い方も重要）


United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization
From the People of Japan
Man and the Biosphere Programme
PROVINCE OF ALBAY OFFICIAL SEAL
United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization
National Commission of the Philippines
The 12th Southeast Asian Biosphere Reserves Network (SeaBRnet) Meeting
Strengthening Networks for Sustainable Management of Biosphere Reserves
including a special session of the Asia-Pacific Biosphere Reserves Network
26 - 28 March 2019
Legazpi City, Albay, Philippines
SEABRNET XII
Legazpi City, Albay, Philippines
26 - 28 March 2019
ALBAY
Albay Biosphere Reserves

The 12th Southeast Asian Biosphere Reserves Network (SeaBRnet) Meeting
"Strengthening Networks for Sustainable Management of Biosphere Reserve"
26-28 March 2019, Legazpi City, Albay, Philippines

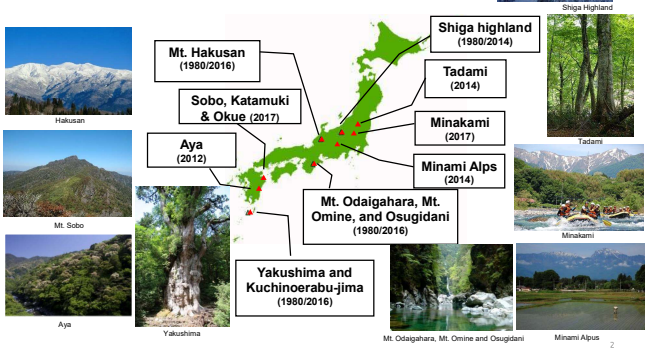
Country report from Japan

Dr. Yoshihiko IIDA* and Dr. Aida MAMMADOVA
(Kanazawa University and Mount Hakusan Biosphere Reserve Council, Japan)

2

Overview of BRs in Japan

9 BRs are recognized in Japan .
They are also designated as national parks, quasi-national parks, wilderness conservation areas, nature conservation areas or forest reserves.

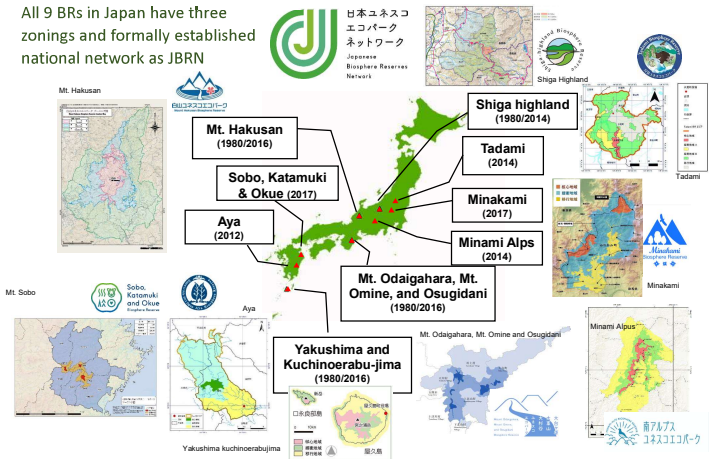


Original slide from Japanese National Commission for UNESCO

3

Overview of BRs in Japan

All 9 BRs in Japan have three zonings and formally established national network as JBRN



4

Recent publications on Japanese BRs

First book of "Biosphere Reserves" in Japan

Matsuda, H., Sato, T., and Yumoto, T. (eds) (2019) **UNESCO Ecopark: Nature reserve as a model of sustainable community**. Kyoto University Press, Kyoto, Japan (in Japanese)

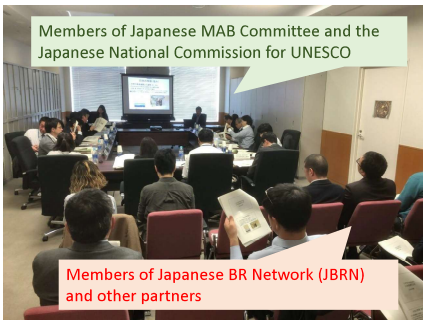
Matsuda H, Sato T, Nakamura S (in press) **Transdisciplinary approaches for the reactivation of Japanese biosphere reserves**. Price M, Reed M (eds) "Sustainability, Science, and Society: Learning from UNESCO Biosphere Reserves" Earthscan (Routledge) Publishing

ISBN: 9784814002054

5

Discussions on strengths and future directions of Japanese BRs

- Assessment report on implementation of LAP done by Dr. Toshinori Tanaka (The University of Tokyo)



20 March 2019, MEXT, Tokyo
Photo: Yoshihiko Iida

Strength of Japanese BRs
- Collaboration with university and educational sectors
- Municipality-driven management close to local stakeholders
- National network

Challenges of Japanese BRs
- Coordinating among multi-municipalities
- International communications
- Collaboration with private sectors
- Governmental initiative
- Diversity of ecosystems in BRs

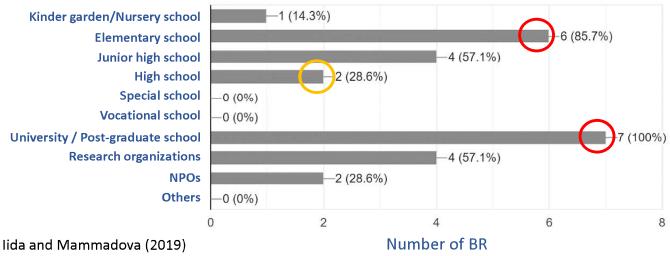
6

JBRN's characteristics from educational aspects

Results of questionnaire survey on educational activities

Response: 7BRs/9BRs

Educational collaborations with BRs in Japan:
- Universities are important key collaborators in educational aspect as well as elementary schools
- Further possibilities to promote educational activities for high schools



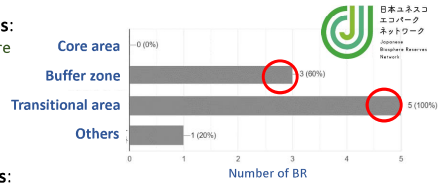
Iida and Mammadova (2019)

7

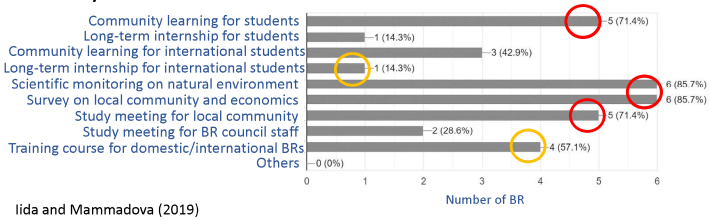
JBRN's characteristics from educational aspects

Results of questionnaire survey on educational activities

University Education within BRs:
- Most of educational activities are conducted in buffer zone and transitional area



Future expectations of university Education within BRs:



Iida and Mammadova (2019)

8

JBRN's characteristics from educational aspects

Case studies of university collaboration with BRs in Japan (6), Belarus (1) and Russia(4)

Mammadova and Iida eds. (2018) "**Biosphere Reserves for Future Generations: Educating diverse human resources in Japan, Russia and Belarus**", Kanazawa University

Financially supported by (FY 2018) Official Development Assistance for UNESCO Activities, the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT), Japan

JBRN's characteristics from educational aspects

International training course through BR networks

2017 MAB YOUTH FORUM

Dr. Aida Mammadova
Associate Prof., Kanazawa Univ.

International Symposium on
"University Education with Multi-stakeholders in UNESCO Biosphere Reserves -Implementation of Sustainable Development Goals in Eurasia-" 21 July 2018

Financially supported by (FY 2018) Official Development Assistance for UNESCO Activities, the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT), Japan

Establishment of SDGs Biosphere Reserves, Geoparks Research Center, Kanazawa Univ. in Shiramine of Mount Hakusan BR **Feb 2019**

Bilateral exchange of students, faculty and staff members of both universities between Kanazawa Univ. and Belarus State Univ. **Oct. 2018**

International training course through BR networks

Certified Training Course for Russian Students in MHBR

14 Russian Students visited Kanazawa University for three week training in July, 2018

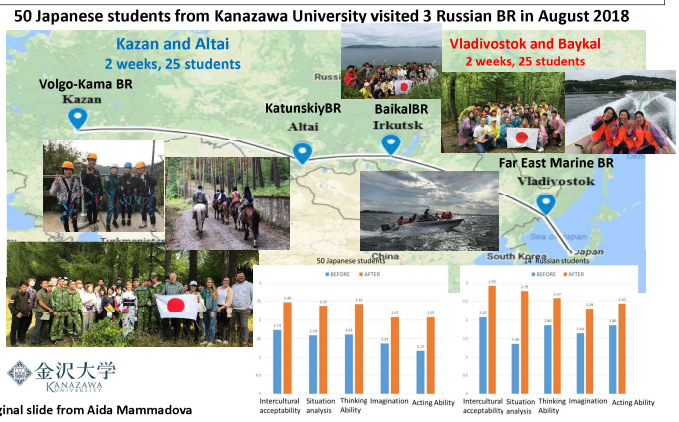
4 Russian Partner Universities
Kazan Federal University (Volga-Kama BR)
Altai State University (Katunskiy BR)
Irkutsk State University (Baykal BR)
Far Ear Federal University (Far East Marine BR)

Original slide from Aida Mammadova

International training course through BR networks

Educational Partnership Project with Russian BRs, 2018-2021

50 Japanese students from Kanazawa University visited 3 Russian BR in August 2018



Original slide from Aida Mammadova

Future aspects: Training for young field professionals through BRs

- Each country has its own strong points: community learning (such as JBRN) and scientific monitoring (EuroMAB, SeaBRnet, EABRN….)
- Regional network can bridge these gaps **through university collaboration with BRs**
- International exchange program can offer **young field professionals to learn scientific and monitoring skills** in the fields of ecology/biology/environmental science and also **to be involved in sustainable community development** within BRs

UNESCO Mideum-term Strategy 2014-2021
SO5: Promoting international scientific cooperation on critical challenges to sustainable development

Lima Action Plan 2016-2025
B1.2. Regional education, capacity building and training programmes established, including University courses

Kanazawa University International Student Program, July, 2017

"Strengthening Networks for Sustainable Management of Biosphere Reserve"
for young field professionals!!, and for communities!!